

国立国語研究所学術情報リポジトリ

言語行動を説明する言語表現の諸相

著者	杉戸 清樹
雑誌名	談話研究の目指すところ
ページ	5-12
発行年	1993-03
シリーズ	国立国語研究所研究発表会 ； 平成4年度
URL	http://doi.org/10.15084/00002902

0. 発表の趣旨： 「～の目指すところ」「～への寄与」という課題に即して

①「注釈表現」とか「メタ言語行動表現」と呼んで研究対象としてきている表現類型のうち、「言語行動を説明する言語表現」をめぐって、言語行動論の領域でこの表現類型を研究することの意味合いを考える。

②とくに、問題の表現類型のもつ表現上のはたらきの一つが

その言語行動に関与する人的要素（言語行動主体、相手、登場人物、わきの聴衆など）や場面的な要素に対する、言語行動主体（話し手・書き手）の待遇表現的な配慮としての「丁寧さやあらたまり」を支えるはたらきと記述できることを、具体的な言語資料の検討を通して考える。

③この検討を通して、問題の表現類型に注目することが、談話としての言語行動をア. 表現内容（素材）の側面、イ. 対人性・場面性の側面という両面から検討するための、一方の有力な手がかりになり得ることを示唆することを目指す。

【補記】問題の表現には、言語行動によって表現される内容（話題や素材、あるいは叙述や判断の内容）やその表現・伝達の過程のわかりやすさ（明晰性）を支える機能もあると考える（杉戸1989, 杉戸・塚田1991など）。今回はこちらについては直接触れない。

1. 「言語行動を説明する言語表現」とは：問題の所在と研究の対象

1.1. 言語行動研究部で敬語や待遇表現を考えていて出会った、研究の発端

(1)「謹ンデ新年ノゴ祝詞ヲ申上ゲマス」としか書いてない年賀状

疑問①「ご祝詞」はどこにいったのか？

②この文言はどれだけの内容を表現しているのか？

③年賀状を書き送るという言語行動とこの文言とはどういう関係か？

④年賀状のことばとしてのこの文言はどんな表現効果を発揮するか？

(2)あたまの部分に「揭示」と大きく書いて揭示板に貼ってある揭示物

疑問①揭示物であることは、「揭示」と書かなくてもわかるではないか？

②その揭示物の内容とこの「揭示」という文言とはどういう関係か？

③揭示物を書いて貼り出すという言語行動と「揭示」とはどういう関係か？

④「揭示」と書くことはどんな表現効果を発揮するか？

(3)道を尋ねるのを「アノー、チョットオ尋ネシマス」と切り出す言い回し

疑問①たとえば「アノー、スミマセン、駅ハドチラデショウカ？」と聞けばわかるではないか？

②「駅はどちらか？」という質問の内容とはどういう関係か？

③「駅はどちらか？」と質問する言語行動とはどういう関係か？

④「チョットオ尋ネシマス」と言うことはどんな表現効果を発揮するか？

1.2. 「言語行動を説明する言語表現」とは

そのつどの言語行動場面において話し手（書き手）自身がこれからどんな種類の言語行動をしようとしているか（あるいは、いまだどんな種類の言語行動をしたか）を、具体的な言語表現の形をもって明示的に言ったり書いたりした、その言語表現。

たとえば、次の例のうち下線を施した部分のような言語表現類型。

- (4)「ゴ結婚マコトニオメデトウゴザイマス。謹ンデオ祝イノ言葉ヲ申上ゲマス。」
- (5)「以下ニ、イクツカ実例ヲ列举シテオクコトスル。①・・・ ②・・・。」
- (6)「チョットオ願イシマス、ソコノ窓アケテクダサイマセンカ。」
- (7)「スミマセン、オ尋ネシマスガ、新宿行キノバスハ何番乗り場デショウカ？」
- (8)「ご案内 3階ノ講演会会場ヘハ、コノサキノ階段ガゴ便利デス。」←[揭示]
- (9)「平成5年度事業計画書ノ提出ニツイテ（依頼）」←[公文書の標題]

1.3. 補足1：言語行動について言及する言語表現の広がり、そのなかでの「言語行動を説明する言語表現」の位置

そのつどの言語行動について言及する言語表現はさまざまな姿で日常的に観察できる。大きく2類に区分できる。

①言語行動の構成要素や側面に記述的に言及する言語表現類型

- (10)ソレデハ私カラゴ説明イタシマス。 →言語行動の主体
- (11)コノ話ハ、生徒ダケデナク保護者ニモ聞イテモラウコトニスル。 →相手
- (12)電話デゴ連絡シマス。 →媒体 などなど

②言語行動の構成要素や側面を評価的に言及する言語表現類型

- (13)私ナドガシャシャリデテ僭越デスガ・・・ →主体
- (14)コンナ夜分遅ク申シ訳有リマセンガ・・・ →時刻
- (15)本来ナラバオ目ニカカッテオ願イスベキトコロ、オ電話デ失礼シマス。
→接触状況・媒体 などなど

②の類は、対人的な配慮（待遇表現的な気配り）のよりどころの明示的な表現だと解釈できる。そこから敬語形式のみならず言語行動全般におよぶ待遇表現の広がりを観察する有力な手がかりが得られる（杉戸1983など）。

今回ここで注目するのは①の一部であって、言語行動の種類（コミュニケーション上の機能、行動の趣旨・意図の種類）を、ことばの形をもって明示的に、評価的な姿勢をとみなわずに記述的に、説明する表現類型。

1.4. 補足2：問題の表現の現れ方（言及する先の（オブジェクティブ）言語行動との関連で）

①言及する先の言語行動が、非明示的（明言されていない）。 → 例(1)

② “ ” 明示的。

- (16)チョットオ願イ、窓アケテ。 (17)先生、質問！ コレドウ読ムノ？

2. 諸相その1；公的場面でのあいさつにおける

参照論文「言語行動を説明する言語表現 —— 公的なあいさつの場合」

(杉戸・塚田1993 『研究報告集14』国立国語研究所報告105)

2.1. 具体例 (括弧内数字は資料での実例番号)

- (18)「・・・ここよくお引き受け賜りまして、まことにありがとうございました。
心から厚く御礼申し上げます。」 (731『学校教育審議会あいさつ』)
- (19)「一言お礼のごあいさつを申し上げます。・・・(中略)・・・まことにありがとうございました。」 (106 『副議長辞任あいさつ』)
- (20)「A市・B町合併祝賀式を挙行されるにあたり、県議会を代表して一言お祝いを申し上げます。A市は、〇年に・・・(中略)・・・合併の実現を見るに至りましたことは、地方自治の拡充強化と住民福祉増進のためまことに喜ばしく、本日の祝賀式を心からお祝い申し上げるとともに、両市町関係各位の・・・(中略)・・・大A市がますますめざましい発展を遂げられますことを祈念して、お祝いのことばといたします。」 (251『町村合併祝賀式辞』)

2.2. 資料収集の対象

『公用あいさつ辞典』(飯山章夫編著1971, 帝国地方行政学会。国語研図書館蔵)
内容：地方自治体(一部、国の機関も含む)の関与するいろいろな儀式・会合・会議の場で首長をはじめとする主な参加者の行った公的なあいさつ(あいさつ・式辞・祝辞・弔辞など)を集録。

対象：会合や儀式の現場で話しことばとして実現した(と見なせる)もの 822例。

(表彰状・市民憲章・請願書などを除く。宣言・決議・要望などは別扱い)

テキストとしての公的あいさつの特徴：

- ①一人が多く聞き手に向い、ある程度の時間、一方的に語りかける言語行動。
- ②文字や書きことばから完全に独立した場合は少ない(その可能性が高い)。
巻紙、簡単なメモなどの「読み」。他人(事務局など)の準備した可能性。
- ③儀式性・形式性、あらたまりの程度の強い言語行動。

2.3. 仮説的な前提：「あらたまり」を軸にして

- ①問題の表現類型(以下、ここでは限定的に「メタ言語行動表現」と呼ぶ)は、あらたまり性の強い言語行動ほど現れやすいだろう。
- ②ならば、あらたまりの程度の強い公的場面でのあいさつにはメタ言語行動表現がよく現れるだろう。
- ③また、メタ言語行動表現自体もあらたまった姿をしているだろう。

2.4. 記述の観点：「あらたまり」との関連で

- ①メタ言語行動表現の中心的な動詞(句)の姿
- ②その修飾要素と目的要素
- ③文末の姿
- ④現れる頻度
- ⑤出現位置
- ⑥1文中への複合的な出現
- ⑦言及する先の言語行動の直接的な表現との関係

2.5. 中心的な動詞（句）の姿

収集できたメタ言語行動表現：2,882例

説明される言語行動の種類（表1）：34類

具体的な動詞句の種類（表2の小分類）：150種類

→ 日本語社会での公的場面のあいさつの種類をリストアップする可能性へ

【表1】 説明される言語行動の種類（具体的な動詞をまとめたもの）

あいさつする／～を言う／悼む／祈る／慰霊する／祝う／訴える／敬う／
 歓迎する／感謝する／協賛する／激励する／捧げる／賛成する／式辞を言う／
 偲ぶ／壮行の辞を言う／送別する／讃える／誓う／伝達する／同情する／
 ぬかづく／願う／望む／察する／表彰する／披露する／閉会する／報告する／
 約束する／喜ぶ／礼する／詫げる

【表2】 メタ言語行動表現に現れた動詞（句）とその修飾要素

〔抜粋〕

敬語的要素は削除。○は副詞的要素，△は目的要素及び内容。

あいさつする
 あいさつする
 ○開会にあたり，開始にあたり，出発に際し，一言，閉会にあたり，礼をかねて，
 ～にあたり，～に際し △～に対して
 あいさつと
 ○以上，終わりに，（たいへん，はなはだ，まことに）簡単ながら（ではあるが，
 だが），こころより，最後に，尽きぬなごりを込めて，まことに粗辞だが △祝
 いの，開会の，これをもって，辞任の，就任の，新年の，壮行の，退職の，着任
 の，年頭の，閉会の，喜びの，礼の，礼をかねて，礼をもって，別れの，私の，
 ～の
 あいさつにかえる
 ○一言，以上（はなはだ，φ）簡単だが，はなはだ意を尽くせないが，はなはだ
 （まことに）粗辞だが △就任の，退任の，礼の
 あいさつを言う
 ○改めて，案内に接し，開会にあたり，開催にあたり，恒例により，ここに，心
 より，この際，辞任にあたり，謹んで，はなはだ僭越だが，一言，閉会に当た
 り，皆様方に，～に先立って，～より，～を代表して △祝いの，慶祝の，新年
 の，立候補の礼の，礼を兼ねて，～の
 あいさつを終わる ○これをもって △私の

〔後略〕

2.6. メタ言語行動表現のあらたまった姿

実例を整理・観察すると，以下のような特徴が指摘できる。これらはいずれも，問
 題のメタ言語行動表現に言語表現としての格調やあらたまり・丁寧さをもたらしてい
 る特徴だと言える。

① 動詞の末尾にレトリカルな言い回しが目立つ。

～ノコトバヲ言う（言イ述ベル／述ベル），～ノコトバトスル，～ヲ捧ゲル，
 ～ノ意ヲ表スル，～ノコトバニカエル，～シテヤマナイ，～ヲ終ワル など

② メタ言語行動表現全体の末尾にもレトリカルな言い回しが目立つ。

～スルモノデアル，～シテイルトコロデアル，～シテヤマナイ，
 ～スル次第デアル，～スル機会ヲ得タ，～スル光栄ニ浴シタ など

③ 表現の末尾には相当丁寧な敬語形式が豊富に付加される。

④メタ言語行動表現が繰り返して、あるいは重層的に現れる定型が目立つ。

冒頭と末尾に集中する定型性。 言語行動そのものの重層性の反映。

⑤意志や希望を直接表現する要素の付くことが比較的まれである。

表現の直截性を避ける表現姿勢。

⑥連用修飾要素には、言語行動の時機、タイミング、行い方の様態、主体の態度・心情、あるいは言語行動をめぐる謙遜・いいわけを内容とするものが目立つ。いずれも定型化した表現であり、格調というべきものをもたらさう。

ア. 当該のメタ言語表現が言及する言語行動の、あいさつの中での位置を表す

「以上／以下に／はじめに／次に／終わりに」など

イ. 言語行動をおこなっているその時（時機、タイミング）を説明する

「この機会に／～にのぞみ／～にあたり／～に際して」など

ウ. 言語行動の様態（行い方、量、調子、他との関連、など）を説明する

「あわせて／かさねて／一言／特に／深く／あらためて」など

エ. 言語行動をめぐる謙遜・いいわけ・注釈などの前置き

「簡単だが／粗辞だが／意を尽くさないが／～僭越だが」など

オ. 言語行動の主体の態度や姿勢を説明する

「心から／切に／謹んで／衷心より／神かけて／尽きぬ名残を込めて」など

2.7. メタ言語行動表現はあいさつにあらたまりをもたらす

祝辞の「おめでとうございます」、謝辞の「ありがとうございます」、激励の「がんばってください」、弔辞の「やすらかに眠ってください」など、問題の言語行動を感嘆文・希求文・要求文などの形でいわば直截に表現する表現が、きわめて少ない。

メタ言語行動表現 全実例 2,882 のうち、これを伴うもの 110例 (3.8%)

[祝う；640例中62例、 あいさつする；442例中24例、 礼する；216例中20例、
喜ぶ；59例中4例]

こうした表現は、文字通り聴衆に直接的に話しかけるという表現姿勢をもつ。メタ言語行動表現が自らの言語行動を説明的に言及する間接的な表現姿勢であるのとは対比的である。

あいさつをあらたまった形で行おうとする話し手は、表現の直截性を避けるという表現姿勢を選ぶであろう。すなわち、これと対比的な間接的な表現姿勢をもつメタ言語行動表現を多く選ぶであろう。これによってあいさつ行動のあらたまり性が強められる。この意味で、メタ言語行動表現は表現類型として、そこで行われるあいさつの言語行動全体のあらたまりを支える手段になっている。

前項(2.6.)の指摘と総合すれば、表現主体（あいさつをする人）は、メタ言語行動表現をあらたまったものと整えることを土台にしつつ、メタ言語行動表現を採用することを通して、あいさつ行動全体をあらたまったものに整えようとしている。すなわち、メタ言語行動表現は、それ自体、聞き手や場面などに対する話し手の対人的・場面的な配慮の現れと解される。

3. 諸相その2；日常的な話しことば場面における

参照論文「言語行動を説明する言語表現と丁寧さ」（杉戸1993『日本語研究』14）

3.1. 資料収集の対象

資料 国立国語研究所の第2次岡崎敬語調査(1972, 73)で得た、具体的な言語場面での使用言語形式の回答一覧リスト（国語研1983 報告77の巻末付録）から。

- 場面 ①電報局の窓口で、電報用紙をもらう。
 ②近所の人が急病になり、医者に往診を依頼する。
 ③東京の道を歩いていて、通りがかりの人に国会議事堂への道を尋ねる。
 ④近所の行き付けの店で、自分の荷物をあずかってもらうよう頼む。

3.2. 分析の観点と整理の手順

観点 メタ言語行動表現を含む発話と含まない発話とは丁寧さが異なるか？

- 手順 ①全12場面から、依頼・要求・質問など相手への働きかけの強い4場面を選ぶ。
 ②各場面約400件の回答発話を、メタ言語行動表現の有無で分類する。
 ③報告書で各回答に与えられた「丁寧さ段階点」の、両グループの平均値を計算し比較する。（ここでは5段階点を扱う。数値が小さいほど丁寧。丁寧さ判定の直接的な条件にメタ言語行動表現の有無は入っていない。）

- 例 (21a)スミマセンガ オネガイシマス デンポーヨーシガホシーンデスケド
 イタダケマスカ（有・段階2）
 (21b)デンポーヨーシ クダサイ （無・段階4）
 (22a)チョット オタズネシマス ギジドーイ イクミチオ オシエテクダサイ
 （有・段階3）
 (22b)ギジドーエ イクニワ ドーユーフーニ イクンデスカ （無・段階4）

3.3. 結果から；メタ言語行動表現を含む発話は丁寧だと判定されていた

【表3】

場 面	メタ言語表現					
	有グループ			無グループ		
医者	26件	2.423点	(0.321) 》	374件	2.679点	(0.9612)
荷物預け	19	2.315	(0.848)	380	2.732	(1.6332)
議事堂	64	2.250	(0.344) 》	334	2.829	(0.9499)
電報用紙	11	2.455	(0.248) 》	386	3.199	(0.6985)

（ ）内は分散。》は平均点に信頼度95%で有意差のあることを示す。

- ①メタ言語行動表現を含む言語表現は、含まない言語表現よりも相対的に丁寧であると評価されると、ある程度の確かさをもって主張しうる。
 ②メタ言語行動表現を含む言語表現の丁寧さの程度は、含まない言語表現よりも相対的に安定している（分散が小さい）。

4. 諸相その3：公用文における

参照論文「文書の定型表現 —— 地方自治体職員の意識調査から」

(杉戸1985『言語生活』408号)

4. 1. 調査の対象と内容

- ①全国 852 の地方自治体（道府県，特別区，市町村）の文書担当職員 1,679人。
- ②自記式回答紙を郵送し，所属の役所の実情と担当者としての判断を回答いただく。
- ③公文書のあて名敬称などの敬語形式，文書の標題・文末のメタ言語行動表現など。

4. 2. 文末のメタ言語行動表現の実例

- (23a)○○ヲ開催シマス。ドウゾ多数ゴ参加クダサイ。〔無〕
- (23b)○○ヲ開催シマスノデゴ案内申上げマス。ドウゾ多数ゴ参加クダサイマスヨ
ウ オ願イイタシマス。〔有〕
- (24a)○○ヲ発送シテヨロシイカ。〔無〕
- (24b)○○ヲ発送シテヨロシイカ伺イマス。〔有〕

4. 3. 結果から：メタ言語行動表現のある方が丁寧だと意識されている

【表4】 (数値は百分率。無回答は省略。)

	道府県	市・区	町・村	全体
〔有〕の方が丁寧	63.6	76.4	80.7	78.1 %
〔無〕の方が丁寧	5.7	7.8	7.7	7.6
どちらも同程度	28.4	15.2	9.8	12.9

5. まとめ：こうした研究の目指す（寄与する）ところ

- ①われわれが日常的な言語場面で言語行動によって<何をしているのか>の広がりやその内容を知るための，具体的な言語表現としての手がかりを与える。

例．あいさつ・スピーチの言語行動で，「祝う」「励ます」「礼する」「悔やむ」などの行為を実現する。

日常会話という言語行動で「質問」「依頼」「要求」などを実現する。

文書という言語行動で「照会」「依頼」「回答」などを実現する。

→言語行動の種類・機能のパラエティやひろがりを知るための基礎的な作業。

→いわゆる遂行動詞（報告動詞・策動文など）の研究，発話行為の研究との重なり。

また，森山1988，仁田・益岡1989，金水1989,1991，浜田1991，田窪1992，仁田1991など非メタ的表現形式の意味・機能をめぐる議論との重なり。熊谷発表とも。

- ②言語行動の備えるべき<丁寧さ・あらたまり>を実現する言語的な手段の一つとして，問題のメタ言語行動表現が重要な働きをしていることをあきらかにする。

→<何をしようとしているのか>を明示的に言及することが丁寧さを支える。

- 今回は触れなかった＜明晰性＞についても同様。
- この＜明晰性＞＜丁寧さ＞の二つは、語用論で言う言語行動のそなえるべき基本的な価値・原則に重なる。表現内容目当て、人的要素目当ての基準である。これらを実現するために、メタ言語行動表現も有意意味な働きをしているらしい。
- 語用論、発話行為論との重なり。たとえば山梨1986, Leech1980, 1983, Recanati, 1987, Schiffrin1987, Wardhaugh1985 など。

③さらに進んでは、われわれが言語行動において＜丁寧さ＞＜わかりやすさ＞を実現しようとするとき、言語行動の構成要素・側面のどの部分に、どのような配慮を加えればよいのか（われわれが実際に加えているのか／加えようとしているのか）を知るための手がかりを与える。

- わかりやすい文章・談話の構成手法、文章作法の具体相への視点。
- 言語形式だけでない言語行動の諸面にわたる対人的配慮の現れとしての、総合的な待遇表現のひろがりへの視点。言語行動マナー集構築の視点。
- よりひろく、日本語社会では、言語行動の諸面のうちどのようなことがらが＜気＞にされて＞いるのかをとらえる視点。それを拡張して得られる対照研究の視点。

【参考文献】

- 浜田麻里 1991 「デハの機能 —— 推論と接続語」 (阪大日本語研究 3)
 金水 敏 1989 「『報告』についての覚書」 (仁田・益岡1989所収)
 金水 敏 1991 「伝達の発話行為と日本語の文末形式」 (神戸大学文学部紀要 18)
 国立国語研究所 1983 『敬語と敬語意識 —— 岡崎における20年前との比較』 (国語研究報告77, 三省堂)
 森山卓郎 1988 『日本語動詞述語文の研究』 (明治書院)
 野元菊雄 1978 「ていねいさの順位」 (『国語学』115集, 国語学会)
 野元菊雄 1985 「敬語のパネル調査から(その1) 合計段階点と適応点」 (国立国語研究所『研究報告集』6, 秀英出版)
 仁田義雄 1991 『日本語のモダリティと人称』 (ひつじ書房)
 仁田義雄・益岡隆志 1988 『日本語のモダリティ』 (くろしお出版)
 荻野綱男 1980 「敬語における丁寧さの数量化」 (『国語学』120集, 国語学会)
 荻野綱男 1983 「待遇表現の数量化」 (『朝倉日本語新講座5 運用1』, 朝倉書店)
 杉戸清樹 1983 「待遇表現としての言語行動——『注釈』という視点」 (『日本語学』2巻7号, 明治書院)
 杉戸清樹 1985 「文書の定型表現」 (『言語生活』408号, 筑摩書房)
 杉戸清樹 1985b 「言語行動の規範とその運用の実態」 (文部省科学研究費報告『特定研究言語の標準化・総括班研究成果報告書1984』)
 杉戸清樹 1989 「言語行動についてのきまりことば」 (『日本語学』8巻2号, 明治書院)
 杉戸清樹・塚田実知代 1991 「言語行動を説明する言語表現——専門的文章の場合」 (国立国語研究所『研究報告集』12, 秀英出版)
 杉戸清樹・塚田実知代 1993 「言語行動を説明する言語表現——公的なあいさつの場合」 (国立国語研究所『研究報告集』14, 秀英出版)
 杉戸清樹 1993 「言語行動を説明する言語表現と丁寧さ」 (『日本語研究』14号, 印刷中, 東京都立大学)
 田窪行則 1992 「談話管理の標識について」 (『文化言語学』三省堂)
 山梨正明 1986 『発話行為』 (新英文法選書12, 大修館書店)
 Leech, G. N. 1980 Explorations in Semantics and Pragmatics (John Benjamins, Holland) 邦訳『意味論と語用論の現在』内田・木下訳1986, 理想社
 Leech, G. N. 1983 Principles of Pragmatics (Longman, London) 邦訳『語用論』池上・河上訳 1987 紀伊國屋書店
 Recanati, F. 1987 Meaning and Force (English ver., Cambridge U. P., Cambridge)
 Schiffrin, D. 1987 Discourse Markers (Cambridge U. P., Cambridge)
 Wardhaugh, R. 1985 How Conversation Works (Basil Blackwell, Oxford)